

大泉学園複合施設(ねりま健育会病医院)

高橋 美香

- 功 績** 毎月ヒヤリハット報告を積極的に提出し、医療安全文化の形成に多大な貢献を行っている功績。
- 推 薦 者** 伊藤 憲次
- 推 薦 理 由** 安心安全な療養環境を提供するための対策の一つとして、ヒヤリハット報告の提出を奨励している。当施設においてH29年12月より毎月ヒヤリハットの提出が多かった者に医療安全推進賞を授与し積極的なヒヤリハットの提出を促しているが、今回推薦する高橋は12月より3度の医療安全推進賞を獲得し殿堂入りを果たした。その後も積極的なヒヤリハット報告を提出し賞が授与されない状況となりながらも、また4月に施設内で1番多くのヒヤリハット報告を行い施設における医療安全文化形成のため活動を続けている。

内 容

当院は開設以来、回復期リハビリテーション病棟の重要アプローチの一つである、離床、非抑制を続けてきている。その反面転倒・転落のインシデントは多数あがり、その対策には苦慮している。大きな事故を未然に防ぎ安心・安全な医療環境を提供するためヒヤリハット報告による情報収集を開設時から職員に呼び掛けてきたがなかなか効果が上がらなかった。ヒヤリハット報告数を増加させる目的で平成29年12月より医療安全推進賞を設け、毎月ヒヤリハット報告を1番多く提出したものに賞を授与することとした。

高橋は12月に8件のヒヤリハット報告を行い、この賞の最初の受賞者となった。施設全体でも前月67件から109件とこの月よりヒヤリハット報告は増加した。

高橋は翌1月にも14件の報告を行い連続受賞となり、かつ全体提出数も140件と増加した。

その後も高橋は毎月ヒヤリハット報告の提出を行い2月に3度目の受賞となり殿堂入りとなった。

高橋は殿堂入りとなったため賞の受賞資格は消失した。しかし4月には5件の報告をおこない施設内で1番の報告数であった。

医療安全委員会は賞を授与することでヒヤリハット報告数を向上させる手段をとったが、高橋の行動は賞とは別のところにあり、医療安全に対し真摯に取り組む姿勢を示したものである。